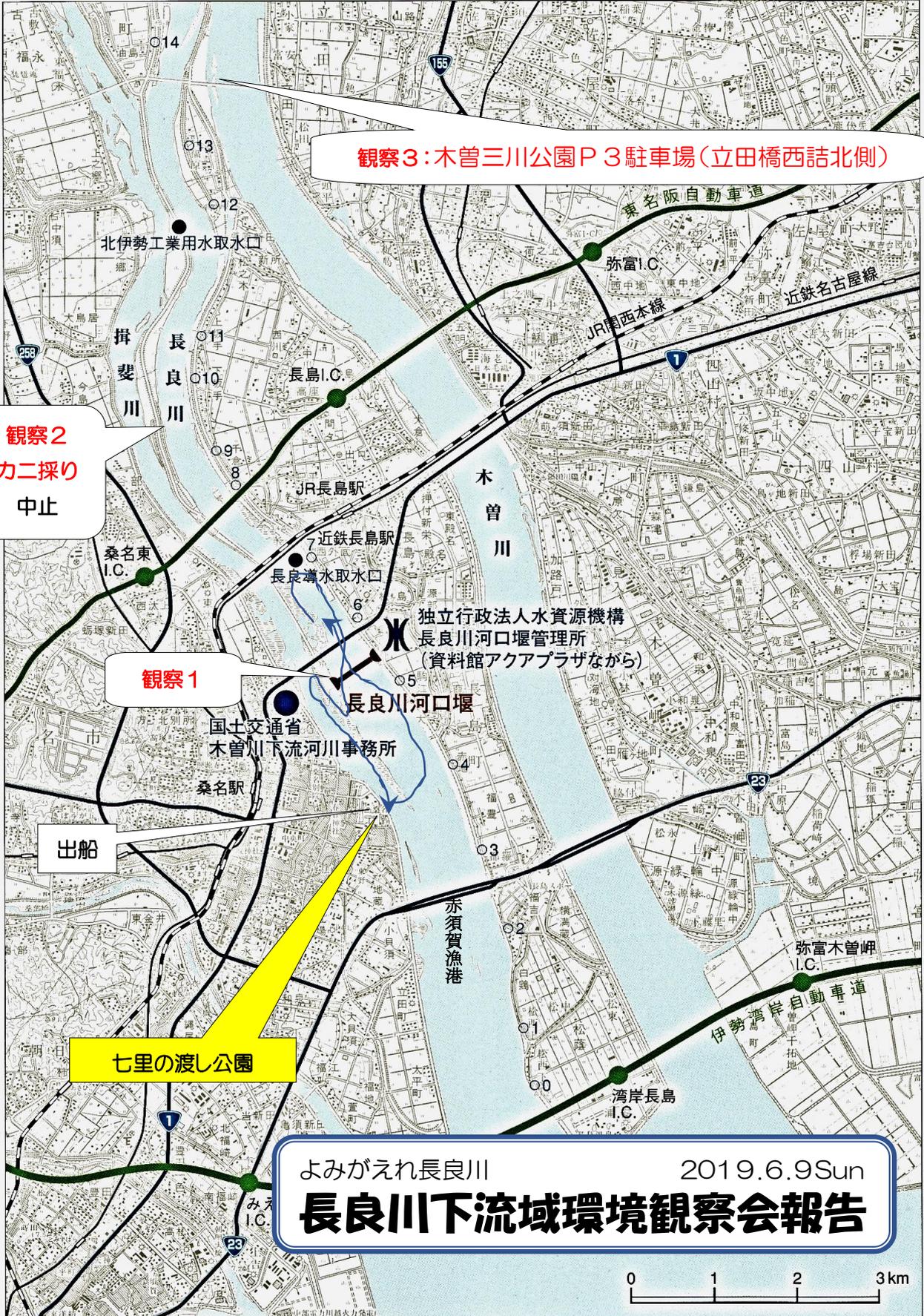


■長良川河口堰位置図



観察3: 木曾三川公園P3駐車場(立田橋西詰北側)

観察2
カニ採り
中止

観察1

出船

七里の渡し公園

よみがえれ長良川
2019.6.9Sun
長良川下流域環境観察会報告



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。
(承認番号 平18部復、第40号)

2019/6/9 「長良川河口域環境観察会」報告

今年はいいにく梅雨入りに重なり小雨模様の中を多くの初参加者を交え19名の参加で11回目の観察会を行いました。今回はいつもと違い、桑名市の「七里の渡し公園」の堀にある船着場から乗船し、はじめに河口堰周辺を船から観察。午後は長良川、揖斐川、木曾川に沿って木曾三川公園まで北上し、水辺の様子を観察しました。講師は粕谷志郎当代表と元長良川下流域生物相調査団の千藤克彦さんでした。

河口堰周辺

揖斐川 河口から約4 km

水深 4.8m

底質は以前よりは綺麗ではないけれどサラサラした砂状

小さな貝が2個

酸化還元電位+160mv、+182mv



長良川 河口から約4 km (堰下流側) 水深 4.2m 水温23.2℃

底質はヘドロ状、生物なし

酸化還元電位-165mv、-171mv



長良川 河口から約6 km (堰上流側) のヨシ原

昨年よりも一層減少し、10株ほどしか残っていない。来年まで残っているだろうか。

河口堰の下流から赤須賀漁港のあるあたりまで長良川と揖斐川の間、かつては大きなヨシ山があった。地元の人達には「十万山」と呼ばれていたが、堰の影響で水の流れが変わり、どんどんえぐられ年々小さくなっている。船頭さんの話では、この辺りでは貝の他にもハゼ、ボラ、セイゴなどがたくさんとれたが今ではすっかりいなくなり、ハゼ釣りのお客もめっきり減ってしまったとのこと。

なぜ長良川でベンケイガニが採取できなくなったのだろうか？

例年行ってきた河口から9.8キロ地点の背割堤を挟んだ揖斐川と長良川でのカニ採取は雨天のため中止した。従来の観察会では、揖斐川ではクロベンケイガニ、ベンケイガニ(赤い)を小さなものから大きなものまで多数採集できた。長良川でも少ないながら、かなり大きな4~5センチのカニを採集できた。カニは6月頃水辺で産卵し、その幼生が引き潮に乗って海域に達し、そこで成長し、上げ潮によって河川感潮域に着底する。潮の流れが堰で遮断され、淡水となっている長良川では生育できない。長良川で今まで少ないながら捕獲できたのは、カニが揖斐川から背割り堤を越えて長良川に侵入してきたからである。しかしここ2年ほどクロベンケイガニ、ベンケイガニが採取できなくなっており、昨年はアカテガニが1匹採集できただけであった。アカテガニはかなり広範囲に陸上移動するといわれている。それに比べクロベンケイガニ、ベンケイガニの移動範囲は短いと思われる。今まで千藤先生は、長良川の背割り堤以外で採取した大きなカニは揖斐川から背割り堤を越えて

長良川に侵入して、それが移動してきたものではないかと考えていた（千藤説）が、山内先生は堰閉鎖以前に棲み着いていたものの生き残りだと考えた（山内説）。真偽のほどは、2015年から2017年に行った調査で、背割り堤以外の場所の大型のカニが完全に姿を消したことが明らかとなり、山内説が正しいことが分かった。河口堰によって自然界でのベンケイガニの寿命が2、23年だということも分かった。

浚渫工事

千本松原の下流右岸では今年も大規模な浚渫工事が行われていた。この辺りもかつては広大なヨシ原だった。この工事は平成25年度からからはじまり、25年度は約2万m³浚渫、費用は約2億1千万円とのこと（岐阜県長良川河口堰調査検討会の資料による）。いつまでこの工事は続くのだろうか。

木曾川右岸・木曾三川公園(河口から約14km)のワンド

千本松原のすぐ東、木曾川右岸の川辺で観察。ここは かなり大きなワンド(湾処)になったところ。ヨシ原が広がり長良川では今では見られなくなったサンカクイ、マコモなどの多様な植物が見られ、オオヨシキリの賑やかな鳴き声が聞こえた。水辺には小さなベンケイガニやモズクガニ、イトメなどが観察できた。千藤先生のお話では、これらの数えきれないほどのイトメやゴカイ、カニなどは他の生き物の食べ物になるだけでなく水質を浄化する働きをしている。かつては、新月の夜に、年に一度だけ川面を埋め尽くすほどのイトメの産卵の様子を観察できたが、河口堰ができて2年目には長良川からは姿を消してしまったとのこと。



小さなモズクガニ

参加者の感想

◆河口堰の閘門を潜り、巨大な人工構造物に驚いた。私たち人間が自然、生態系を破壊していることを実感した。私には何ができるのか、考えていきたい。

◆以前参加した人から聞いてはいたが、実際自分で見て経験したのでは違っていた。

◆経験のある講師の方から話が聞けてよかった。

◆自分の地元で自然観察会をしているが、この経験を生かしていきたい。



イトメ

左：水辺の川底をスコップで掘り出すと、真っ黒な還元状態の土にオレンジ色の筋が見える。イトメの活動空間である。
イトメにより土中にいっぱい酸素が取り込まれていることが分かる。